

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

肢体不自由教育における牽引力のある学校としての「組織力・専門性・実践力」を継承し、特別支援教育の推進を図るために、「障がいのある子どもの自立と社会参加をめざしたキャリア教育の展開」を行うとともに、「センター的機能の発揮」に努める。その際、本校の校訓でもある「明るく 正しく たくましく」を旨として、以下の3点を重点とした学校経営に取り組む。

- 1 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実に努め、保護者と連携し個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
- 2 安心・安全な学校づくりと子どもの障がいの状況に応じた支援の方策を図るために教員の専門性向上と授業改善の工夫を図る。
- 3 開かれた学校・地域との連携を重視し、福祉・医療・労働等の関係機関との連携を促進し、支援教育の更なる充実のために地域支援の、センター的機能の発揮に努める。

2. 中期的目標

1. 障がいのある児童生徒一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けて必要なキャリア教育の充実に努め、個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実に努める。
 - (1) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の充実・活用に向けた取り組みを各学部で推進し、保護者との連携促進と移行を意図したシステムを構築する。
 - (2) 「環境教育」を教育課程に位置付け、各学部での取り組みを行う。その際、校内に作成したビオトープを活用して環境教育を推進する。
 - (3) 卒業後の進路について、社会参加ができるような進路保障をする。
 - (1)については、毎年検証し、課題を整理し具体的な取り組みを推進する。
 - (2)のビオトープについては、H29年度までに定着させる。
 - (3)関係機関と連携し社会と生徒とのつながりを創出し、つながる場や機会のない生徒を0にする。
- 2 安心・安全な学校づくりを推進する。
 - (1) 定期的安全点検と同時に、緊急時を想定したマニュアルの再確認とシミュレーションを行う。防災対応についてPTA、地域と連携し継続した取り組みを進める。子どもの安全確保や人権尊重に基づいた取り組み月間等を設け、教職員への人権意識の涵養に努める。
 - (2) 重度重複障がい・医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師などの連携を図り、保健室がキーステーションとなってマニュアルの再確認と点検を行い研修の充実に努める。
 - (3) 増加する知的障がいの生徒の多様化や在籍数の増加に対応できる安全対策を進める。
 - (4) 自立活動専任を中心に自立活動の充実に努める。

*それぞれ毎年成果の検証を行う。
- 3 堺・泉北地域における支援教育の中心的役割を担い、センター的機能の発揮に努める。そのためには、肢体不自由や知的障がい、自閉症等の障がい特性等の理解や指導技能の専門性を磨き、教員一人ひとりの授業力を高めるための取り組みを行う。その際、以下の内容について、具体的な取組計画を行う。
 - (1) 校内研修や授業実践の公開を行うなど積極的に障がいに関すること、授業の研究・系統だった研修の企画を行う。その支援として、大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを活用する。

*外部人材の招聘 ①大学の研究者10回程度、②医師、医療関係者5回程度、③園芸専門員他10回程度、学生支援員（随時）
 - (2) 校外支援として、堺・泉北地域の支援教育の中心的役割を担い、教育委員会・学校との調整を行い、リーディングスタッフ・コーディネーターを中心に巡回相談や教育相談を展開し、地域の学校園に対しての支援方策を展開する。

*教育委員会とも連携し、支援の成果と課題の整理をし、より効率的な支援ができるようにする。
 - (3) 授業力の向上や授業改善として、ICT等の機器を活用した教材の導入等の工夫を図る。計画的に導入したタブレット端末機を活用した授業実践を進める。

*タブレット端末機をはじめとしたICT機器を活用した実践の報告会等を開催し、教員の実践力を高める。
- 4 機能的な組織づくりを推進する。
 - (1) 分掌間の連携や分掌内の係分担の連携を進める。
 - (2) 首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで課題解決に向けての検討を進める。
 - (3) 教職員の資質向上に努めるなど人材の育成を進める。

*機能的な組織づくりをめざし、毎年検証を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 10 月 実施]	学校協議会からの意見
<p>1 アンケート項目数 児童生徒用 9 項目、保護者用 29 項目、教職員用 42 項目</p> <p>2 回収率 児童生徒分 = 58.3% (昨年度より 13.5 ポイント減) 保護者分 = 51.5% (昨年度より 11.6 ポイント減) (大手前分校 = 61% 昨年度より 3 ポイント増) 教職員分 = 100% (昨年度同じ) (大手前分校 = 65% 昨年度より 20 ポイント減)</p> <p>3 結果と分析 回答は児童生徒用ではア「たいへんたのしい、たくさんある、よく対応してくれている」、イ「たのしい、ある、対応してくれる」、ウ「あまりたのしくない、あまりない、あまり対応してくれない」、エ「まったくたのしくない、まったくない、まったく対応してくれない」とし、集計では、ア+イ=肯定的評価、ウ+エ=否定的評価としている。 保護者、教職員ではA「よくあてはまる」、B「ややあてはまる」、C「あまりあてはまらない」、D「まったくあてはまらない」とし、A+B=肯定的評価、C+D=否定的評価としている。</p> <p>(1) 児童生徒の結果 ①全体的な傾向 回収率が低下してきている。 ②課題のある項目 (ウ+エが 20%以上) 「学校の楽しさ」「将来につながる授業」「教員への相談のしやすさ」等に関する項目が 24~25%の数値を呈した。</p> <p>(2) 保護者の結果 ①全体的な傾向 ・回収率が徐々に下がってきている。 ・肯定的評価が若干増加している。 ②肯定的評価 (A+Bが 90%以上) 項目 「学習内容・学校生活・評価等に係る学校からの情報提供」「適切な相談対応」「給食」「災害についての情報提供」「授業参観、学校行事」「子どものプライバシー保護」「個別的教育支援計画」に係る項目であった。</p> <p>③課題のある (C+Dが 20%以上) 項目 「授業のわかりやすさ」「学校の施設・設備」に関する項目が 23~24%の数値を呈した。</p> <p>(3) 教職員の結果 ①全体的な傾向 ・本校の回収率は 100%を継続しているが、大手前分校の回収率には課題が残る。 ・「道徳教育」「清掃活動」等の教育活動への取り組みについてや、会議を含む教職員間のコミュニケーションの在り方等についての課題意識が高まっている。 ②肯定的評価 (A+Bが 90%以上) 項目 「教育についての教員の話し合い」「指導内容の工夫改善」「保護者の願いを活かす教育」「自立活動の指導」「生活指導での家庭との連携」「魅力的な学校行事へむけての工夫改善」「子どもの人権尊重」「いきとどいた給食」「校長の教育理念、学校運営の明示」の項目が 90~98%の数値を呈した。 ③課題のある (C+Dが 20%以上) 項目 「教育活動の評価と次年度への生かし」「道徳教育の在り方」「教材・教具・備品の適切な配置と活用」「交流教育の在り方」「清掃活動・指導」「会議を含めた教職員間のコミュニケーションの在り方」「学校組織と適材適所への人材配置」「施設・設備」「経験の浅い教員の育成」「職員の自主的・自発的研修」の項目が 21~38%の数値を呈した。 以上の結果を教職員全員で共有するとともに、具体的な策を講じ実践し、次年度以降の学校力の向上を推進していく。</p>	<p>1 開催日 ・第 1 回 = 平成 29 年 6 月 28 日 ・第 2 回 = 平成 29 年 12 月 1 日 ・第 3 回 = 平成 30 年 2 月 22 日</p> <p>2 協議会委員から出された意見 ○教育活動等について ・児童生徒たちの、年齢の異なる他者との関係性や、周囲からの支援が少ない状況での他者との関係性を構築できる力の育成を望んでいる。 ・学校が取り組めることと福祉事業者が取り組めることとは異なっている状況であるので、密な情報交換が必要である。 ・学校協議会に参加し、学校の具体的な取り組みを知る機会となり有意義である、ただ、「個別の移行支援計画」の活用等については、保護者への更なる啓発が必要である。 ・「個別の移行支援計画」の確実な引継ぎが望まれる。また、卒業生へのアフターケアの一環として、事業所との連携による状況確認等も更に進めてもらいたい。 ・医療的ケアにおいて、年度当初の保護者の付き添い期間を、できるだけ早期に解消できるよう目途をつけておくことが大切である。 また、泊を伴う行事への付き添い看護師が、日頃から児童生徒の健康状態を把握している方が望まれる。 ・高等部におけるクラブ活動について、保護者への啓発を進めてもらいたい。 ・学年が移行しても類似の教科書が使用されているように思われる。 ・大手前分校における教育活動等について、「学校経営計画」へのより具体的な内容の記載が望まれる。</p> <p>○授業アンケート及び学校教育自己診断の結果等について ・授業アンケートについて、生徒・保護者の提出率が低下傾向にあることが気にかかる。 ・「授業が分かりやすく楽しい」の質問項目において、高等部が他部より低い数値を示しているようだが、友達関係も含め、年齢が上がるにつれて思いが多様化することの現れの一つではないか。 ・施設設備に係る設問に対する満足度が低いようである。衛生的且つ機能的なトイレの設置については、PTAからも要望をだしている。 ・学校教育自己診断に係る大手前分校の教職員の提出率が低いのが気にかかる。提出率の向上を求めたい。 ・“いじめ”の未然防止、及び生起時の対応を万全にしていきたい。</p> <p>○地域との連携について ・学校の防災への取り組みにおいて、自治会としても連携を図り、協力を推進していきたいと考えている。また、地域の避難所として、物資の確保手段等についての検討もお願いしたい。 ・地域の避難訓練への学校からの参加も期待したい。 ・地域と学校との更なる連携強化を望んでいるが、その基本となるのは、地域住民と学校関係者との挨拶だと考えている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実	<p>(1) 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」の充実と保護者との連携促進</p> <p>(2) 環境教育の一環としてピオトープを活用した、各学部での取り組みを行う。</p> <p>(3) 卒業後の進路について、社会参加できるような進路保障をする。</p>	<p>(1) ①キャリアステージ表の各段階で示された内容を教育内容に具体的につなげた実践例の報告会を各学部で実施し実践力を高める。 ②保護者懇談や参観日で連携を進める。</p> <p>(2) ①校内に設置したピオトープを児童生徒が活用し、環境教育を推進する。各学部で実践事例の情報交換を行う。 ②近隣の清掃活動の支援 継続して実施してきた清掃活動について、今年度も実施し、成果と課題を整理しより効果を高める。</p> <p>(3) ①PTAと連携し、福祉事業所合同説明会を開催する。また、関係機関との連携を深め、事業所訪問も積極的に行い、的確で丁寧な情報提供を行い、適切な進路決定ができるようにし、外部との関わりのない生徒を0にする。 ②就労支援コーディネーターの取り組み成果を教員で引き継ぐ。</p>	<p>(1) ①学期に1回実施。 ②保護者からの肯定的評価 95%</p> <p>(2) ①各学部で実践事例をまとめる。 ②地域からの肯定的評価 90% 清掃活動（月1回実施）成果・課題の整理をする。</p> <p>(3) ①保護者の肯定的評価 80%以上 ②実習先の開拓等、取組成果が継続している。</p>	<p>(1) ①計画通りに実施した (○) ②学校教育自己診断関連4項目の肯定的評価平均 92%であった (○) (2) ①計画通りに実施した (○) ②自治会関係者からの聞き取りで90%の評価 (○) (3) ①学校教育自己診断関連項目の肯定的評価 80%であった (○) ②実習先の 30%増加を図った (○)</p>
2 安心・安全な学校と子どもの障がいの状況に応じた支援の方策	<p>(1) 定期的安全点検。PTA、地域と連携した防災対応の取り組みの推進</p> <p>(2) 人権教育を充実する。個人情報の保護についての教職員の意識をさらに高める。</p> <p>(3) 医療的ケアの必要な児童生徒の安全な指導のため、医師・看護師等との連携を図る。事故防止のための体制づくりの強化を図る。</p> <p>(4) 増加する知的障がいの生徒の安全対策を進める。</p> <p>(5) 大手前分校における病院との連携促進</p> <p>(6) 子どもの障がいの状況に応じた授業の工夫をし、自己実現につなげる</p>	<p>(1) ①PTA・教職員の協働により、児童生徒の補助具の点検・トイレ環境整備等を図る。 ②PTAと連携し、賞味期限の確認も行い、備蓄品を計画的に充実させる。 BCプランに基づいて初期対応を具体的に検証しより実効性のあるものにする。</p> <p>(2) 人権教育の全体計画を周知し、各学部の授業での実践を進める。また、参加型の研修を今年度も継続して実施する。 個人情報の内容の周知と管理、配布等のチェックのシステムを確立する。</p> <p>(3) ①新転任者・医療的ケアの未経験者に研修をすぐ役立つ要点から始め計画的に実施する。 ②医師・看護師からの定期的カンファレンスを設定する。 事故報告、インシデント、ヒヤリハットの報告を受け、原因究明し、事故防止の意識を高める。PTやST等の専門家を招聘して、介助の方法や身体的アプローチの仕方等の技法を学ぶ機会を企画する。</p> <p>(4) 危険な箇所を順次改修する。</p> <p>(5) 「学校・病院との連携協議会」の学期1回開催及び「月一回の連絡会」の開催の継続とより実効性を持たせるため内容の検討を継続する。</p> <p>(6) ①教材の工夫や指導の工夫をし、学期に1回報告会をする。 ②スパイダーシステムの活用を広げる。</p>	<p>(1) ①月1回の点検を実施 改善プランの作成 ②初期対応の具体的な動きの確立</p> <p>(2) 各部での実践をまとめる 研修での教職員の肯定的評価 90% チェックシステムの確立</p> <p>(3) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価 90% ②医師・看護師・専門家からの受講者への肯定的評価 85%</p> <p>(4) 優先順位をつけ、順次改修に取り組む</p> <p>(5) 病院関係者、教員の肯定的評価 85%</p> <p>(6) ①児童生徒、保護者の肯定的評価 85% ②前年度より活用が 20%増加。（前年度延 703 人）</p>	<p>(1) ①月1回の補助具点検、学期1回のトイレ清掃を実施 (○) ②災害時対応としての、児童生徒の保護者への引き渡し訓練を実施 (○) (2) 各学部で実践をまとめた。研修の肯定的評価は90% (○) (3) ①肯定的評価平均は概ね90% (○) ②肯定的評価平均は概ね80% (○) (4) 費用が高額な領域の改修の進捗はよくない (△) (5) 肯定的評価は、概ね80%であった (○) (6) ①学校教育自己診断関連2項目の肯定的平均評価 87%であった (○) ②前年度比 20%の増加であった (○)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 支援教育のセンター校と教員の専門性向上の取組</p>	<p>(1) 校内研修や授業研究・実践の促進</p> <p>(2) 教員の専門性向上に向けての支援</p> <p>(3) 障がい種別に応じた外部人材の招聘</p> <p>(4) 校外支援と校内支援の展開の充実</p> <p>(5) 福祉等関係機関や放課後デイサービス機関との連携の強化</p> <p>(6) 道徳教育の取り組みを進める</p>	<p>(1) 研修部が中心となり系統だった研修を進め、その研修の課題と成果を整理し研修効果を高める。昨年度行った研究授業の見学方法等の結果を踏まえさらに改善する。</p> <p>(2) ICT活用実践報告会を実施し、活用事例を増やす。見本となるような教材教具を集約し参考事例となるようにする。他校での先進的な取り組みを視察し、本校での取り組みとして活用できるものを探る。</p> <p>(3) 大学や医療専門職など、外部のスーパーバイザーを招聘して適切な指導援助を受ける。①大学の研究者10回程度、②医師、医療関係者5回程度、③園芸専門員他10回程度、学生支援員 随時)</p> <p>(4) リーディングスタッフ、コーディネーターと自立活動専任スタッフを中心に校内・校外支援の組織的な動きを支援する。 自立活動専任スタッフが行う校内支援を教員に具体的に示し、専門性向上につなげる。 支援部と進路指導部の校内支援についての整理をし、より有効な支援につなげる。</p> <p>(5) 保護者と連携し、福祉関連機関に移行支援計画を確実に引き継げるようにする。増加する放課後デイサービス機関との連携を進める。</p> <p>(6) 各学部での教科の視点を入れた取り組みをまとめる。</p>	<p>(1) 参加者からの振り返りシートによる肯定的評価85%以上 見学者・反省会参加者の前年度より20%増加</p> <p>(2) 報告会を学期に1回実施 教材教具の集約 先進校の視察実施</p> <p>(3) 外部人材による研修者への評価、受講者の満足度85%以上 系統だった指導</p> <p>(4) 各市教育委員会及び学校園における本校のリーディングスタッフ・コーディネーターの支援に対する肯定的評価90%以上 月1回の管理職を含めた自活専任会議の実施。教員の満足度85%以上 支援内容の整理ができる。</p> <p>(5) 福祉関連機関放課後デイサービス機関からの本校との連携に対する肯定的評価80%</p> <p>(6) 具体的事例をまとめる。</p>	<p>(1) 肯定的評価は概ね90%であり、見学者・反省会出席者の参加は、前年度比20%増であった(○)</p> <p>(2) 報告会及び教材教具に係る内容は計画通りに実施したが、先進校視察は実施できなかった(△)</p> <p>(3) 研修回数は計画通りに実施した。また、満足度評価は約80%であった(○)</p> <p>(4) 地域支援に対する肯定的評価は概ね90%であり、自立活動のそれは95%であった 支援内容の整理は継続して取り組んでいる(○)</p> <p>(5) 肯定的評価は80%に達した(○)</p> <p>(6) 道徳領域に係る具体的事例を、各学部でまとめた(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 機能的な組織づくりの推進</p>	<p>(1) 校内組織の機能的運営</p> <p>(2) 人材育成</p>	<p>(1) ①各分掌で仕事内容を整理し、引継ぎがスムーズにいくようにする。 ②首席会、運営調整会議、運営委員会、職員会議といった流れで、課題解決や将来構想に向けての検討を進める。</p> <p>(2) ①初任者育成のバディ制度を定着させ、より効果的に進める。 ②10年研修を活用し、メンタリング、チームビルディングを浸透させる。</p>	<p>(1) ①仕事内容のデータベース化の完成 ②定期的実施し、課題解決等の確認をする。</p> <p>(2) ①受講者からの振り返りシートの肯定的評価90% ②メンタリングで支援者被支援者の肯定的評価80%</p>	<p>(1) ①各分掌におけるデータベース化は概ね完成した(○) ②継続している内容も含め、5項目以上の課題改善を図った(◎)</p> <p>(2) ①肯定的評価は93%であった(○) ②肯定的評価は90%であった(○)</p>